

去年、まったくと言っていいほど趣味のなかった私に、唯一の楽しみができました。以前は興味がなかったファッションが、今では大好きです。WEBストアで洋服を見たり、雑誌を参考にしてコーディネートのポイントを知ったりすることが日々の楽しみになりました。実際に買ったりすることも好きなのですが、色々なテイストのたくさんの洋服の中から自分だけのお気に入りを見つけられた瞬間にはワクワクが止まりません。今や、服は私の生活の一部になっています。ですが最近、そんな私を悩ませているものがあります。次のシーズンにどんな服を買おうかという問題です。

今年の春、春服を買うために何度も買い物に行ったのですが、一着も買うことができませんでした。いいな、と思ったものでも、どうコーディネートしようか、本当に必要なのか、もっといいのがあるのではないかなどと買うのをためらってしまい、結局買わないことがほとんどです。また、インターネットで可愛い服を見つけて母に自慢しても、たいていの場合は「うーん」または「ちょっと早いよ」「デザインが大人っぽすぎ」と言われてしまいます。私は大人な系統が好きで、特に透けている素材やビビットな色を選びがちです。ですが、母にはそれが年相応ではないと言われてしまいます。実際お気に入りの透けた素材やビビットな色は、学校に着ていくのには少し抵抗があります。

休日に出掛けることもそう多くないため、買ってもし着る機会は少なくなってしまうでしょう。こうして、欲しいかと思ったものをなかなか買えずにいます。

何回買い物に行っても、WEBサイトで根気強く探しても、ぴったりのものが見つかりません。また、いいものがあっても「もっといいものがあるはず」と自分に言い聞かせてしまい、買う勇気がでません。きっと私は、雑誌に載っているような「完璧な」スタイリングだけが正解だと思い込んでしまっていて、それを無理にでも目指そうとしてしまいました。

私は強い焦りと悲しみを感じました。ネットで見つけて「かわいい!」と思った服も、他から「違うんじゃない」といわれると、一気に胸のわくわくがしぼんでしまいます。また、サイズが合わなかったり、買ってあまり着られなさそうだったり、これが正解なのか自信がなくて買えなかったりした自分がいました。正直、ファッションを失った自分は自分ではないような気がしたのです。私には洋服の他に趣味がありません。だからこそ、「私はこんな人です」と胸を張って言えるように、ファッションの趣味をずっと大切にしていきたいと思うのです。

また、私は自信が持てません。そのため自身のコーディネートをなかなか認められません。雑誌のスタイリングという確実なもの比べてしまい、自分色を出せずにいます。

ですが、最近気づいたことがあります。ファッションの世界ではメイクはその人の気になるところをカバーし、隠すためではなく、その人が持っているもとの美しさをよりひきたたせるためにあること。そのために一重の人メイク、奥二重の人メイク、それぞれの顔の形に合うメイクなど多様な種類があり、それは、服をコーディネートすることにも共通しているのです。最近では、自分の肌のパーソナルカラーや骨格に合わせた服選びをすることが注目されています。

服の雰囲気によってなりたい自分になれるのも服の素敵どころですが、自分に似合った服を着ることがその人の良さを引き出す一番いい方法なのだ気づき、はっとさせられました。雑誌を見ている、モデルは自身が持っている強みをよく知っていて、それを最大限活かしたヘアメイク、スタイル、メイクを選んでいると感じます。自身の強さ、愛らしさなど、「そのまま」を表現することが自分の良さを知ることにつながり、そして自分を認めていくことにもつながっていくのです。自己肯定感が低い私も、自分そのままを表現してくれるような服を着て、より良さを引き出した自分を持ちたいです。そのためにはまず、自分の強みを沢山知ることが必要不可欠だと考えます。また、人の様々な良さにはそれぞれ似合った服があって、たった一つの正解のコーディネートなどないのです。今の私には、自分の強みが何かよく分かりません。ですが、この先自分を見失いそうになった時も、この「私」の感じにぴったりの洋服がきっとあるよと自分を励ましていきたいです。そんな素敵な洋服と出会える時が来るまで、どんなものが似合うか似合わないのか、たくさん悩み、たくさん自分自身と向き合い、自分という存在を好きになれるよう、自分のペースで少しずつ頑張っていきたいです。

ぴったりの洋服をまとうことで、その人の素の美しさを一層引き立ててくれる。そんな魅力がファッションにあるとは、これまで思いもしなかったことです。やはり、ファッションのパワーは偉大だ、とこの感話を書いていて身に染みて感じま

した。遑って、どんな服を買おうかという迷いのことですが、まずは「可愛いな」とわくわくしたものを、一步踏み出して買ってみようかと思います。私に似合うかは、お楽しみです。